

# フレスコスカラー

シラン・シロキサン系漆喰調無機質水性塗料

## 施工要領書

**BIRCS**

株式会社バークス環境

## 概 要

フレスコカラーは、特殊な無機高分子シロキサンを主成分とする漆喰調の高耐久性無機質外装仕上げ材です。天然漆喰調の自然で穏やかな風合いが特徴です。

また、フレスコカラーに遮熱性能を付加させたフレスコカラープラスを別途ご用意しております。（フレスコカラープラス カatalog参照）

## 特 長

- 1、 水性無機質塗料ですので、臭気が無く安全です。
- 2、 超速乾性です。2～3時間で乾燥します（20℃）。
- 3、 Sクリートアップ（コンクリート改質・強化剤）との併用により強固にコンクリートを保護できます。
- 4、 無機質塗料の為、紫外線劣化が少なく、また塗膜表層に帯電しないので、長期に美観を持続します。
- 5、 無機高分子シラン・シロキサン成分で形成されている為、防水性、通気性に優れ、コンクリートを長期間保護できます。
- 6、 リコート性に優れており、漆喰壁や一般塗装面への再塗装などリフォームに最適です。
- 7、 標準色は20色です。別途色見本帳をご用意しております。
- 8、 浸透定着型ですので、基本的にプライマー処理の必要はありません。

## 施工可能な素地

コンクリート・モルタル・漆喰壁・土壁・樹脂系塗料等

## 施工前確認事項

- 1、 下地の汚れ、カビ、レイトランスは高圧洗浄等にて除去してください。酸洗いをした場合に必ずアルカリ中和処理をしてください。アルカリ中和処理は弊社にて、SCクリーナーをご用意しております。
- 2、 雨天時の施工は避けてください。施工可能な気温は5度～35度です。
- 3、 クラック・ジャンカ・爆裂などは事前に補修してください。クラックや表層劣化は弊社Sクリートクラック工法にて補修することをお勧めします。
- 4、 下地にフッ素系クリアーが塗布されている場合は付着しませんので、サンダーにて除去してください。

## 施工用具

ローラー（短毛ウーローラー・マイクロファイバーローラー）・刷毛・バケツ・ハンドミキサー・計量器等

## 施 工

### 1、養生

ガラス、アルミサッシ、金属、その他一般的な養生をしてください。

### 2、下地処理

- ・カビ、藻、レイトンス等は高圧洗浄してください。
- ・Sクリートアップを十分に2回塗りしてください。塗布量：200 cc/m<sup>2</sup>  
(Sクリートアップはプライマー効果と同時にクラック抑制、エフロ抑制に効果を発揮します。)
- ・クラックはSクリートクラック工法（別紙仕様書参照）にて補修してください。
- ・爆裂補修はペガサビン（浸透性防錆材）を使用し、セルガード工法にて補修してください。（別紙説明書参照）

### 3、調合

調合はフレスコカラー16Lペール缶に対し清水を5～10%まで混入可能です。別途粉体調色顔料300gを混入し、ハンドミキサーにて十分に攪拌してください。

### 4、本施工（塗布）

- ・下地補修が終了後、短毛ウーローラーもしくはマイクロファイバーローラー（毛丈13mm）等にて2回から3回塗りで仕上げてください。速乾性ですのでオープンタイムは1～2時間程度で済みます。  
コンクリート、モルタル、漆喰等・塗布量：200～300 cc/m<sup>2</sup>  
リシン吹付、樹脂系塗料、土壁等・塗布量：300～400 cc/m<sup>2</sup>
- ・コンクリート、モルタル、漆喰などの下地の場合は、プライマーとしてSクリートアップ（ケイ酸塩系含浸剤）を事前に塗布することにより、接着増強、クラック抑制、防水性向上の効果が得られます。一般的樹脂系塗料のリコートな場合はプライマー塗布の必要はありません。

## 5、オプション施工

### ① Sクリートクラック工法

- ・クラックをUカットせず目立たなく補修できます。(注入工法)
- ・コンクリートの表層劣化がありザラザラになっている箇所や、ヘアークラックの補修ができます。(表面被覆工法)

### ② ペガサビン・セルガード工法

- ・コンクリートの鉄筋の錆が懸念される場合は、コンクリート表層からペガサビンを塗布することで、防錆処理が可能です。塗布量：300～400 cc/m<sup>2</sup> (2～3回塗布)
- ・爆裂補修の際もペガサビン・セルガード工法（モルタル混入工法）が有効です

## 6、注意事項

- ・施工可能な温度は5℃以上です。
- ・雨天での施工は避けてください。
- ・新築コンクリートでの離型剤の残留は極力除去してください。
- ・フッ素系塗料が施工されているコンクリートのリフォームの場合は付着しますので、フッ素塗膜をサンダーにて除去してください。
- ・コーキングの上には施工を避けてください。